

津田永忠年譜（抄）

- 寛永 17（1640） 岡山城下の弓之町に生まれる。
- 承応 2（1653） 池田光政に仕える。
- 万治元（1660） 元服して重二郎永忠と称する。
- 寛文 4（1664） 知行 300 石となり評定所へ列座する。
- 寛文 6（1666） 石山仮学館の設置を命ぜられ学校奉行に就任する。
- 寛文 7（1667） 和意谷墓所の造営を命ぜられる。
- 寛文 8（1668） 諸郡手習所の取立てと藩校国学の造営を命ぜられる。
- 寛文 10（1670） 閑谷学問所の設立と井田の地割を命ぜられる。
- 寛文 11（1671） 社倉米の制度を創設する。
- 寛文 12（1672） 光政が隠居し、池田綱政が藩主になる。
- 同年 学校奉行、および評定所への列座を免ぜられる。
- 延宝元（1673） 和気郡木谷村へ移住し、城下の屋敷を返上する。
- 同年 閑谷学問所に最初の講堂を建立する。
- 延宝 3（1675） 飢饉により手習所を閉鎖し、施粥所とすることを進言する。
- 延宝 6（1678） 沖新田干拓の構想を示し反対にあう。
- 延宝 7（1679） 上道郡倉田新田を完成させる。
- 同年 和気郡梶島、鴻島、鹿久居島に藩営の牧の取立てを命ぜられる。
- 延宝 8（1680） 綱政から評定所への列座を命ぜられ、閑谷から岡山城下へ移り住む。
- 天和 2（1682） 死去した光政の入棺の世話を務める。朝鮮通信使の馳走役を務める。
- 貞享元（1684） 邑久郡幸島新田（約 561 町歩）が完成する。
- 貞享 4（1687） 御後園（後楽園）の造営が始まる（翌々年、綱政が初めて臨む）。
- 元禄 4（1691） 500 石を加増され知行 1000 石となる。上道郡沖新田の取立てを許される。
- 同年 京坂の豪商から個人名義で銀 500 貫目を借り、沖新田の開発にあてる。
- 元禄 5（1692） 沖新田の総堤の普請が完了する。
- 元禄 6（1693） 京橋、中橋、小橋等の作事奉行を命ぜられる。番頭に抜擢される。
- 元禄 7（1694） 浅野内匠頭の備中松山城請取りにあたり岡山藩主の使者として赴く。
- 元禄 8（1695） 邑久郡牛窓湊に石波止（一文字波止）を築く。
- 元禄 9（1696） 吉備津彦神社の造営奉行を務める（翌年完成）。
- 元禄 10（1697） 幕府へ提出する国絵図の作成を命ぜられる。
- 同年 津山城主森家の断絶・城明け渡しにつき国境の警備につく。
- 元禄 11（1698） 和気郡大多府島に大漂湊の築造を命ぜられる。
- 同年 備後福山藩主水野家断絶につき備中領分警固のため出張する。
- 元禄 12（1699） 福山検地の元締役を命ぜられ指図に赴く（幕府老中に提出ののち、謁見する）。
- 元禄 13（1700） 播州赤穂城の明け渡しにつき国境へ出張する。  
閑谷学問所の現存の講堂を完成させる、
- 元禄 16（1703） 500 石を加増され知行 1500 石となる。
- 宝永元（1704） 隠居を許され和気郡閑谷に移住する。
- 宝永 4（1705） 病気になり前年から移っていた岡山城下で死去する。